

（午前10時35分 再開）

○議長（石橋英和君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番 2、3 番 富岡君。

〔3 番（富岡清彦君）登壇〕

○3 番（富岡清彦君）一般質問を行います。

今回の一般質問は、橋本市の経済活性化についての 1 項目です。十分時間をかけて議論したいと思います。

先ほどから同僚議員からも、このリフォーム助成制度については、もう何回目質問するんよという声がありました。また、市長にも耳にたこができるほど聞かされているというふうに言われているんですが、私は、何としても実現を見るまで質問を続けたいと思います。

橋本市の経済活性化で最初の質問は、昨年の総選挙で政権が交代、安倍政権が誕生し、経済政策アベノミクスなるものに力を入れています。

そこで質問は、橋本市の経済にアベノミクス効果は出ているのか。また、市民生活に変化は起きているのか伺います。

次の質問は、橋本市の経済活性化策として、私、何度も提案しているリフォーム助成制度の創設について、最近の当局の答弁を要約すると、「ここ二、三年の間はハード面での投資、保健福祉センターの建設、こども園、小学校の建設、学校はじめ公共施設の耐震工事などに多額の予算が必要で、リフォーム助成制度の効果は認識するが、今しばらくお待ちください」と、こういうことであつたと認識いたします。

そこで質問は、答弁のハード面の事業は概ね終了してきています。そのことは、本年度一般会計予算総額から見てもよくわかります。改めて、リフォーム助成制度の創設を提案し、答弁を求めます。

②リフォーム助成制度創設の二つ目の質問は、和歌山県下で初めて、本年 4 月から高野町がリフォーム助成制度をスタートさせました。私、視察も行ってまいりましたが、質問は創設の経過と制度の紹介、利用状況について伺います。

③リフォーム助成制度を実施している全国約500を超える自治体での効能について。一つは、地元業者は仕事が増え、雇用の創設につながり、地域経済が活性化する。二つは、リフォームを行うことで、市民は快適な生活が実現できる。三つは、納税の向上につながる、などが考えられますが、当局のリフォーム助成制度の効能についての認識を伺います。

④南海トラフ大地震に備えて、住宅の耐震工事を推進する上で、リフォーム助成制度と耐震工事補助事業を併用することで、耐震工事を推進していく提案です。

以上、明快な答弁を期待し、1 回目の質問を終わります。

○議長（石橋英和君）3 番 富岡君の、経済活性化に関する質問に対する答弁を求めます。経済部長。

〔経済部長（大倉一郎君）登壇〕

○経済部長（大倉一郎君）皆さん、おはようございます。

アベノミクスによる本市への経済効果についてお答えをします。

内閣府の月例経済報告によると、本年 5 月

の我が国の経済は、緩やかに景気が持ち直している」とあり、2カ月ぶりに基調判断が上方修正されたと報告されています。

しかし、その一方で、中小零細企業が多い本市などの地域経済は、依然として厳しい状況にあり、雇用の増加と所得の回復等、本格的な波及効果までには今少し時間を要するものと思われます。ただし、平成25年1月から3月期における景気予測調査では、先行きに景況感の改善の動きが見られることから、中小零細企業の景況感改善に至るまで、アベノミクスによる国レベルの長期的な経済施策を維持することによって、中小企業を取り巻く環境がさらに改善していくものと期待するところです。

次に、住宅リフォーム助成制度の創設についてお答えします。

本市では、保健福祉センターや学校建設、耐震工事など、市民にとって必要不可欠な大型公共事業が近年多く竣工しており、今後、起債償還等の財政負担も大きくなります。また、新たなこども園の建設をはじめ、公共施設の長寿命化計画に基づく事業も既に一部施行しており、厳しい財政状況を強いられることになります。

このような状況下ではありますが、本市では中小零細企業者の支援として、市内の商工業者を幅広く対象とした融資金利支援策「商工業活性化資金利子補給金」や「中小企業信用保証料補助金」事業を優先的に行っています。これらのことに鑑みますと、議員ご提案の住宅リフォーム助成制度を新たに実施するのは、現状において、なお一層困難であると考えられます。

次に、高野町の住宅リフォーム助成制度についてお答えします。

高野町には、以前から定住転入促進策として、住宅取得に対する補助はありましたが、

平成25年度より、既存町民の居住環境の向上と定住促進を充実させるとともに、町の経済活性化を目的として、住宅リフォーム補助が制度化されています。この制度に対する高野町の平成25年度の予算は1,000万円であり、補助対象となる工事は、畳替えから屋根のふき替えまで幅広く利用できるものとなっています。補助金の額は対象経費の2分の1以内で、最高限度額が20万円であり、補助金の1割は高野町共通商品券を支給することになっております。平成25年6月5日現在の申請件数は14件で、交付決定額は241万3,000円と聞いています。

次に、リフォーム助成制度の効果についてですが、地域経済の活性化の促進や住環境の改善を図り、やがて市民税や固定資産税の増収につながる期待から、本制度は一定の評価ができるものと理解しています。

しかし、市内の商工業者に幅広く支援を行う利子補給制度や企業誘致による雇用対策が、むしろ地域経済の活性化につながるのではないかと考えています。また、リフォームによる個人資産に税金を投入する問題もあり、住宅リフォームの助成制度については、消極的な態度をとらざるを得ないと考えます。

次に、耐震工事補助金とリフォーム助成制度の併用による耐震工事の推進についてですが、現在、本市で実施している木造住宅耐震改修補助金は、住宅耐震診断を行った木造住宅を対象とし、国、県の補助金をあわせて実施している事業です。助成制度による促進効果は期待できると考えますが、さきに述べた理由により、制度化まで至っていないことをご理解願います。

○議長（石橋英和君）3番 富岡君、再質問ありますか。

3番 富岡君。

○3番（富岡清彦君）それでは、橋本市の経

济活性化について、再質問を行います。

まず、1のアベノミクス効果でありますけれども、簡単に言えば、今しばらくというか、時間がかかるという答弁だったと認識するんですが、どんな小さなことでもいいんですけど、何か具体的な効果ということについて答弁をいただけませんか。また、市民生活で少しの変化でもあったというふうな、そうした情報はありますか。部長のほうに伺います。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（大倉一郎君）アベノミクス効果による、橋本市における何か具体的な効果がありましたかという富岡議員のご質問になりますが、今現在のところ、中小企業、零細企業が非常に資金繰りに苦しんでおられる業者もたくさんおまして、利子補給制度とか、昨年の件数で言いますと、昨年度は115件の利子補給の申請がございました。信用保証料の助成についても、昨年は59件という申請がありました。非常に厳しい状況が続いているというのは私も認識しておりますが、今後、アベノミクス効果による長期的な対策を期待されるところでございます。

○議長（石橋英和君）3番 富岡君。

○3番（富岡清彦君）あまり、あまりという効果は上がらんやろうというのが私どもの見解であります。

共同通信が4月20日と21日に世論調査を行っていますが、「所得が増えない」と答えたのが69.2%、「景気好転を実感できない」と答えた国民が81.9%となっているんです。

アベノミクスというのは、3本の矢と言われてますよね。5本の矢と今言うてますが、3本の矢の一つは金融政策です。「次元が違う金融緩和」ということで日銀総裁が言われてますけれども、これは簡単に言えば、1万円札と国債を大量に印刷してるんです。どっと印刷をするという。これによって大もうけ

しているというのは一部です。一部の大資産家とか、あるいは投資家だけであります。その一方で、円安等の影響が出て、食料品や水光熱費が上がって、国民・市民の暮らしは圧迫されているというのが実態だと思います。

この3本の矢の二つは財政出動で、国土強靱化と称して、公共事業に10年間で200兆円つぎ込む。この使い道としては、大都市の環状道路や大型コンテナの港湾、これを整備するといった大型開発が復活をいたしております。さらに、大企業向けの新たに投資減税というのを2,000億円新設をするという、一度失敗をした自民党のばらまきと言えると思うんですけども、その再現になっているんじゃないかと私は認識します。

三つは成長戦略ということで、「名ばかり正社員」あるいは「解雇の自由化」、「サービス残業を合法化する」、1円も残業代を払わないという、こういったことも進められていまして、働く人を無法に使い捨てる。これでは景気は良くならないというふうに思います。

さらに、四つは消費税の増税、五つは社会保障の改悪というふうが続いていきます。

そこで質問は、このような政策で経済は活性化され、市民生活は向上するというふうに経済部長はお考えですか。伺います。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（大倉一郎君）アベノミクスの政策的な、長期的な政策でありますけれども、現在、橋本市においても長期的な政策である以上、昨年度におきましても、国の財政的にも補正予算で工事予算が増えたりとか、いろんな措置は国のほうもしていただいておりますけれども、非常に厳しい生活が続いていくような形だと私は認識しております。

○議長（石橋英和君）3番 富岡君。

○3番（富岡清彦君）それでは、再々質問をいたします。私どもは、経済を活性化させる

目玉と言えると思うんですけどね。賃上げだと。そして、安定した雇用の拡大だということを一貫して主張しているわけです。一部、安倍総理も動いて、経済界に賃上げを要請したということはあるんですけども、もっと具体的に言えば、大企業というのは内部留保金を持ってるんですよ。260兆円。使い道がないんだ。この1年間で10兆円も増えているんですよ。だから、この内部留保金の1%を取り崩してもらえば、月1万円の賃上げというのは可能なんです。

それと、次に言われている、消費税増税に頼らない別の道があるんだということも提案をさせていただいております。皆さん、ご存じでしょうか。所得税というのは、所得が多くなればなるほど税率が下がる、そういう仕組みになっているんです。

（「国会でやれよ」と呼ぶ者あり）

○3番（富岡清彦君）1億円の所得で26.5%の税率です。これがどんどん、所得が増えれば増えるほど税率が下がって、100億円の所得には14.2%しか課税されないと。こういう不公平な、税というのは本来累進課税ですから、所得に応じて税金を払っていただくというふうに改める。あるいは、株のそういう利益に対しても、本来20%の分を10%に落としているというのがあります。

ですから、あのユニクロの社長をはじめ、アベノミクスで日本で一番利益を上げた人と報道されていますが、これは1兆円の利益を上げたわけですけども、こういう10%の課税で済んでいると。こうした点を改めるということで、今、国会で議論せえと言われたので、部長に、こうした不公正税制を是正するという点、どのような感想をお持ちですか。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（大倉一郎君）国の税制のことで

ご質問、是正というようなことでのご質問だと思いますが、国が実施している税ということになりますので、このような形での、どうやというような答弁については控えさせていただきたいと思います。

○議長（石橋英和君）3番 富岡君。

○3番（富岡清彦君）それでは、経済部長が答弁のしやすい点で申し上げます。

私が言いたいことは、長々言いませんけれども、アベノミクスの経済政策で橋本市の経済の活性化は困難だというふうに考えているんです。そこで、橋本市独自の経済活性化策を考えるべきだと思うんですよ。それがリフォーム助成制度の創設だというふうに考えるんですが、いかがでしょうか。お答えいただきやすい質問です。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（大倉一郎君）今、議員のご質問で、橋本市の経済効果を活性化させるためには、今回の議員のリフォーム助成制度が一番橋本市の経済の活性化につながるんじゃないかなというようなご質問でございますけども、先ほども最初に答弁をしましており、大型な公共工事は既に終わっておりますが、まだこれからこども園の建設等、いろんな事業が出てきております。大型な公共工事が完了した後に、起債の償還というのも出てきますので、非常に厳しい状況になろうかと思えます。リフォーム助成制度を運用していくということについては、非常に困難だと思います。

○議長（石橋英和君）3番 富岡君。

○3番（富岡清彦君）私、議員やらしてもらって23年目になるんです。真ん中でちょっと4年間、休ましてもらったんですが、常に行政は23年前からお金がないんです、財政難なんです。市長、よく知ってると思うんですよ。ずっとこれです。そして、市民の要求をいわば抑えていくといいますか。で、市長を

先頭にやる気になったら、あの企業誘致ですよ。予算ベースで35億円入れています。一定の成果は上がっているんですよ。それは評価する点あるんですけども、そういうものだとは私は思っているんです。

実際に、市長の答弁で、2年前だったと記憶するんですけども、ハード面での支出、これが非常に多くかかると。今しばらく待ってくださいという答弁をいただいたんですよ。で、一般会計の予算ベースでいきますと、昨年度で約300億円でしたか。大枠を言いますと。今年度250億円ですよ。50億円もハード面での工事を中心にやらなくてというのか、そういう面では、ハード面での支出は峠を越えたというふうに私は認識するんですけども、これ、市長に答弁もいただいているということもありますので、もう少し真剣に、ずっとお金ない、お金ないというのか財政難と言い続けているあたりも含めて、私が言いたいのは、6月7日に高野町に視察に行ってきたんですよ。で、担当課長とお話をして、言いたいのは、高野町の一般会計の年間予算、35億円しかないんです。で、今、部長答弁あったけども、リフォーム助成制度、二つの制度をやっている。後でまた詳しく言うけども、それで2,080万円予算化しているんですよ。35億円の予算の中で2,080万円という、リフォーム助成制度に予算化してました。これ、どない計算しても、橋本市なら1億5,000万円出せますよね。単純計算ですよ。そんな簡単なものではないということはわかるんですが。それで市長、答弁いただけませんか。

○議長（石橋英和君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）私の考え方を少し申し上げておきたいと思います。

まず、アベノミクスの問題ですが、これはまだ地方都市へは回ってこないとは私も思っ

てございます。しかし、企業誘致で何回も、今年も行っておるんですけども、去年の企業誘致に行った状態と今年行った状態とは、もう月とスッポンほど違うんですね。去年あたりになりますと、とてもそんな話は聞いておれんと。私とこの会社はもう外国へ行くんだとか、あるいはそういう資金がもう手持ちがないんだとか、拡張する考えは先行き不透明やから、とても話は乗れないというような話ばかりでした。

しかし、今年の春からはもう三、四へいくんですけども、とにかく一回、いいことやから話は。見に行かしてもらいますよというのが3件、4件ありましてね。この間からも来てくれたり、また続いて来るんですよ。それはやはりアベノミクスの第三の矢というんですか、やはり地域活性化に向けてのことが、そういう会社になりますと非常に考え方がはっきりしておると私は見えておるんですよ。

したがいまして、来る人ごとに、話の中では、もう少し面積広く欲しいなとかというような意見もありまして、そうしたがいますと、とてもやないですけども、今現在開け切っておる土地だけでは、とてもこの1年ほどで処分してしまわんなんなど。あと続いてまた早急に開発をしていかないと、皆さんの期待に応えられないなというようなことで帰ってきておるのが事実であります。

これもそういうことの中から、順次やはり市内の中小企業に対しても、若干時間はかかってでも恩恵が出てくるものと、私はそう解釈しておるわけでありまして。

次に、リフォームの夢はもうしょっちゅう見てましてな。これも非常にいいことであらうと思うんです。私のリフォームのちょっとの考え方を申し上げておきたいのは、橋本市内の中山間地域で、空き家が大量出つつあるわけございまして、これの一度調査をして、

そうして、その空家を、一旦市のほうへ建物を、20年間とか一定期間を市のほうへ所有権の移転をしていただいて、そしてリフォームをしていくと。台所とか風呂とか、必要などころから改修していく。そのことによって、また大都市からのそういうお客さんをそこへ終年的に永住していただくとかというような方法を、そしたら人も増えてくるし、また、リフォームにも企業にね、また改修をしていただくというような方法、そういう一つの目的を持ってやるのが、橋本市の特色を生かせるのではないかなと思っておるんです。

それをまだ今、私、試算の最中でありますので、いよいよこれを実施するかということについては、まだもう少し時間がかかるなど。在来のリフォームにつきましては、今のところは必要であるけれども、まだあまりそこまで考えていないという点でご容赦をいただきたいと思います。

○議長（石橋英和君）3番 富岡君。

○3番（富岡清彦君）市長に、リフォームとは若干外れるというか、少しですよ、答弁いただきました。

もう少し、このリフォームについての良さというか、そこらを再質問したいと思います。

本年4月、高野町がリフォーム助成制度をスタートさせたということで、私は、実は橋本市が県下で一番にやっていただきたいと、やってくれたら非常に宣伝効果もあるし、何といたしますか、橋本市も有名になるなどずっと思っていたんですが、そういう意味では残念な感があるんですけれども、6月7日に高野町のリフォーム助成制度というのを視察してまいりました。企画財政課長から詳しい説明をいただきました。これ、創設の経過というのは、高野町は現在3,500人の人口だそうで、毎年約100人、人口が減少しているということが、やはり一番大きな、何とかしないといけ

ないということですね。

今回、改めて同僚の阪本議員も質問してましたが、子育て支援については県下ではトップクラスの施策を実施しているということ。中学校卒業までの子どもたちの医療費の無料化をやってました。それから、保育所ですね。保育所の保育料を第2子から、二人目の子どもさんから無料にしていました。それから、保育所、幼稚園、小学校、中学校と、これらの給食代を無料にしていました。それに加えて、今回、リフォーム助成制度というのを新たに創設をしたということです。

一番の目的は、移住と定住の促進ということでした。こうした魅力あるまちづくりと。もちろん他の自治体をとにかくいうことはできませんと言われるかわからないんですけども、こうした県下トップクラスの子育て支援や、あるいは移住と定住の推進と、こうした一連の施策を実施している自治体があることに対して、経済部長はどのような感想を持ちますか。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（大倉一郎君）高野町の状況について、最初にお話をさせていただきましたけれども、高野町につきましては、非常に高台にあるというんですか、橋本市は麓ですけども、非常に山の中にあるというような形で、リフォーム助成制度の始まりというのが、もともとエコとか防寒、断熱、二重サッシ等の整備を高野町は進めていこうじゃないかというようなどころからリフォーム助成制度が始まったと聞かせていただきます。

ただ、これだけの防寒、断熱の関係でしたら、非常に対象の業者も限られてくるということで、施工内容については大幅に見直して、大きく広げていったというようなどころでございます。

高野町の人口の、先ほども減少が非常に激

しいというようなところでご説明ありましたけども、移住と定住の促進は、橋本市の場合でも進めていかなというような考えでございます。

○議長（石橋英和君） 3 番 富岡君。

○3 番（富岡清彦君） もう少し、高野町のリフォーム助成制度については、大きくは二つです。一つは、住環境整備リフォーム助成制度ということで予算総額は1,000万円、そして、5万円以上のリフォーム工事に対して半額補助すると。いろんな全国の制度を調べてるんですが、なかなか何ていいますか、厚い補助といえますか、町民が利用しやすい補助になっているなと感じました。最高補助額は20万円としていました。そして、演壇から部長あったように、補助金の1割、高野町の共通商品券を渡していくということでした。

もう一つは、移住定住促進補助制度ということで、年間予算は1,080万円です。橋本市もこうした、これに類する制度があるんですけども、びっくりしたのは、新築に対して200万円補助を出すというんですよ。出すんじゃない、出しているんです。それから、中古物件を購入してリフォームした場合に、80万円の補助金ということになっていました。

先ほども申し上げたんですけども、35億円の一般会計予算の中で、高野町は2,080万円予算をつけてリフォーム助成制度を創設したわけですけども、単純計算では、橋本市の予算からいくと1億4,500万円という予算化できるという、非常に単純計算ですけども、こうした点で、早急にリフォーム助成制度を創設と、このことを求めたいんですが、答弁をください。

○議長（石橋英和君） 経済部長。

○経済部長（大倉一郎君） 市の財政的なことで、助成制度に対して市のほうで市の予算をつけて取り組んでくださいというようなこと

でございますけども、市の財政状況、非常に厳しい状況になっておりまして、市は全くお金ないというようなことがもう毎年言われるというようなことで、先ほど議員からもお話がありましたけども、これから進めていく事業、また、これまで進めてきた事業に対する償還等、非常に大きくなっていくということになりますので、今回のリフォーム助成制度については、また同じような答弁になりますけども、非常に厳しい、困難だと思います。

○議長（石橋英和君） 3 番 富岡君。

○3 番（富岡清彦君） 財政課長に、いや、経済部長でもええんやけども、高野町で、先ほども申し上げた35億円の一般会計の中で2,080万円をこのリフォーム助成制度に支出すると。で、財源内訳はどうなっているんですかと尋ねたんです。この方、財政課長だったので詳しいんですが、それは国の過疎債、過疎の債権を活用すると。これによって7割の交付税措置があるんだと。要するに、国から7割返ってくるという説明でありました。

リフォーム助成制度、なかなか消極的なので、真剣にこういう財源的な、財源をどうしていくかというあたりでの真剣な検討というんか、ぜひ進めてほしいんですけども、これは財政の専門家、財政課長に伺います。

○議長（石橋英和君） 財政課長。

○財政課長（吉本孝久君） 公共事業につきましては、こども園計画や公共施設の長寿命化計画、これを残して概ね完成しているところでございます。

ところが、新規施策といたしまして、人口増・定住化対策で、平成24年度から新婚世帯住宅取得補助金として、これは一般財源なんですけども、2,200万円を予算措置しております。また、緊急に平成25年度から公共下水道のほう、接続率向上のための公共下水道接続促進助成金として、これも一般財源で6,000

万円。これらを予算化しておるところでございます。

それから、先ほどの保健福祉センター、学校建設等で起債の償還、土地開発公社の解散に伴う第三セクターの起債の償還もあるんですけども、これで平成25年度が32億7,000万円、平成26年度で35億円、平成27年度で36億4,000万円、平成28年度で38億円。ピークとなる平成29年度で40億円程度が見込まれております。

先ほどの補助金につきましては、過疎債は橋本市は適用できませんので、一般財源措置というふうになります。

さらに今後、合併してから10年後、普通交付税というのが減少していきます。最大平成33年度で6億円、普通交付税が減少すると。

こういう中で、新たに市単独による助成制度を設けることは財政的に困難であると、このように考えております。

○議長（石橋英和君）3番 富岡君。

○3番（富岡清彦君）過疎債については、高野町は適用できるけれども、橋本市は適用できないという、それでも言いたいのは、自主財源で600万円を支出してるわけなんです。35億円という予算の中から600万円についての支出をしています。これも単純計算で申しわけないんですが、橋本市の予算規模に試算すれば4,000万円ですか、4,200万円ですか、これだけは出せるということに、まあ非常に単純、単純ですよ、単純計算なんですけれども、なるんですけれども、いかがでしょうか。財政課長。

○議長（石橋英和君）財政課長。

○財政課長（吉本孝久君）橋本市の財政につきましては、基金の残高が減少傾向にあります。その中で、新規施策をする場合につきましては、優先順位というのがやはり出てきますので、その優先順位を考えながら施策を打っていくというふうになりますので、先ほど

の経済部長のお話にもございましたけども、その辺を考慮すると難しいのではないかなというふうに考えます。

○議長（石橋英和君）3番 富岡君。

○3番（富岡清彦君）それでは、次の再質問ですが、これは大分前後するんですけれども、リフォーム助成制度の効能について再質問をします。具体的に伺いますので、具体的に答えてください。

リフォーム助成制度を実施したら、業者は仕事が増える。そして、雇用の創出が考えられ、そして地域経済が活性化すると。これが一つです。二つは、当然、リフォームを行った市民は快適な暮らしができる。それから、三つは、部長の答弁にもありましたけれども、市民税ははじめ納税の向上につながると。こういう三つの効果があるというふうに、リフォーム助成制度を実施している全国約500の自治体があるんですけれども、共通認識というふうに聞いております。

この効能についての認識について、再度、担当部長に伺います。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（大倉一郎君）議員おただしの効能についてでございますけども、リフォーム助成制度を実施して、家をリフォームしたら、実施をする業者が実施するような形になりますので、高野町の場合は高野町の業者と特定をされた形のリフォーム助成制度でございます。高野町以外の業者がリフォームをしても、今回適用にならないということになりますので、高野町のリフォームの助成制度につきましては、町内の仕事が増えるというのは、当然増えてこようかと思います。また、雇用についても同じく増加していくという傾向にあるかと思います。

もう一つの、リフォーム助成制度を行った場合、家の改築といいましょうか、非常に快



適な生活はできてこようかと思います。税金面につきましても、仕事が増えるという形になれば、地域の活性化につながってくることだと思います。

○議長（石橋英和君）3番 富岡君。

○3番（富岡清彦君）これ、経済部長、ばっちり一致しましたね。リフォーム助成制度の効能。いい面、認めていただいたと。ぜひ急いでリフォームやっていただきたいんですが、もう一点、議員もそうですけど、市の職員は割と市民にお叱りを受けるというのが多いやな。市民から批判をされると。そういう状況の中で、不幸なことなんだが、心の病に陥ってなかなか立ち上がれないという、そういう状況も聞きます。

で、このリフォーム助成制度の担当、係の職員と言ったらいいのかな、これが非常に市民から喜ばれるというか、非常に高い評価をいただくようです。全国で実施しているところ。ぜひ、そういう点からも、板挟みというんかね、非常に大変な状況に追い込まれている職員の、仕事をつくるというんじゃないですけれども、市民から評価される、市民から喜ばれる、そういうポストといいますか、ぜひつくっていただきたいなということも付け加えておきます。

最後になるんですけれども、④です。非常に高い確率で南海トラフ大地震というのが言われています。市民の命と財産を守るという仕事は緊急の課題であると考えます。

しかし、対象となっている民家の耐震工事というのは、あまり進んでいないというふうに、それが実態だというふうに思います。以前にも提案をしたんですけれども、耐震工事補助事業とリフォーム助成制度を併用することで、耐震工事を推進していくと。この提案について、再度、担当部長から答弁いただけますか。

○議長（石橋英和君）建設部長。

○建設部長（松浦広之君）答弁の中でも、経済部長のほうから答弁させていただきましたけれども、こういった施策については、多ければ多いほど、手厚ければ手厚いほど、耐震に対する効果もあると期待はできます。

ただし、この辺、こういったあたりの個々の施策については、市としての総合的な政策、特に、とりわけ財政状況等も鑑みた中での政策判断ということになりますので、効果はあるとはご答弁はできますが、実施するか否かにつきましては、先ほどから経済部長が答弁させていただいておりますとおりでございます。

○議長（石橋英和君）3番 富岡君。

○3番（富岡清彦君）先ほどの提案については、私どもだけではありません。本年3月議会で、公明党の議員からも同趣旨の提案がありました。これ、市民の命と財産を守るという立場から、ぜひともリフォーム助成制度の創設、今、市長・副市長体制では難しいという声も聞くんですけれども、これはぜひとも創設を強く求めたいと思います。答弁ください。

○議長（石橋英和君）副市長。

○副市長（清原雅代君）ただ今、市長・副市長現体制では非常に難しいというようなお言葉もいただきましたけれども、合併後10年を間もなく迎えますけれども、やはりこれからの財政状況というのは本当に厳しくなっています。そういったことを考えたときに、今しなければならぬこと、それをやはり重点的に行っていかなければならないというふうに考えています。

先ほど、高野町が取り組まれたということをおっしゃられてましたけれども、高野町は平成25年、この4月1日現在の人口の減少率というのが、和歌山県30市町村ある中で最も

高い減少率を示されています。ちなみに橋本市は11位です。そんな中で、高野町の場合は高野町よりも人口の少ない、太地、北山、それから古座川ですか、三つの町があるわけですが、そこは2桁の人口減に対して、3桁の人数の人口が減少しております。やはり高野町にとっては、そういうことに歯どめをかけるというのが緊急課題ということで、今回取り組まれた側面も大いにあるのではないかなというふうに考えております。

市としても、一定の効果というのはあるのかとは思いますが、やはり市の財政状況、それから、市として取り組むべき優先的な事業ということの見きわめの中で、現状ではなかなか困難ということでございますので、ご理解をよろしくお願いいたします。

○議長（石橋英和君） 3番 富岡君。

○3番（富岡清彦君） もう時間ございませんので、高野町の特殊な事情というか、そういうことを挙げられたように思うんですが、私は現体制で、このリフォーム助成制度をやってほしいんですよ。そういうことが聞こえてくるんで、ぼやきじゃないわ、ちょこっとうただけで、とにかく、冒頭も、同じこと言っても仕方ないんですが、アベノミクスの経済政策、本当に橋本市内の中小零細業者の皆さんの景気が良くなると、これもほんま期待できないと私は思っています。ですから、市独自に、これは爆発的なといいますか、経済効果を発揮できる、それがリフォーム助成制度だと確信をしています。また引き続き、この問題は質問をしていきたいというふうに思ってるんですが、ぜひ、一日も早く創設を強く求めて、質問を終わります。

○議長（石橋英和君） 3番 富岡君の一般質問は終わりました。